

# 石川県滝港マリーナ 中期経営目標

(実施期間 令和5年度～令和9年度)

令和5年3月 策定

## 1 施設の設置目的

石川県滝港マリーナは、健全な海洋レジャーを育てるとともに、教育的側面を持ったマリーナとして、スポーツの振興を図ることを目的としています。

## 2 施設の果たすべき役割

日本海にせり出した能登半島のほぼ中央部・羽咋市にある石川県滝港マリーナは、金沢から車で約40分、自然豊かな国定公園域の中に位置し、マリンスポーツの拠点、散策など、子供から大人まで、広く県民の憩いの場所として親しまれています。

当マリーナはヨット競技大会や講習会の実施により、マリンスポーツ人口の拡大や啓発・普及を図ることを、その役割としています。

## 3 事業内容

### (1) 大会の開催

- ・県民がマリーナを活用する機会を創出するため、行政や各種関係団体と連携し、ヨット大会等を開催します。

### (2) 講習会等の開催

- ・船舶利用者数の拡大や安全運航の促進のため、船舶免許・無線免許取得の講習会を開催します。

## 4 現状と課題

### (1) 管理運営体制について

- ・石川県滝港マリーナでは、民間のノウハウを活用して、施設を効率的・効果的に管理するため、平成18年度から指定管理者制度を導入しています。
- ・指定管理業務は、主に利用者への利便提供、利用促進、施設の使用許可、使用料の徴収、維持管理及び軽微な修繕となっており、また、当中期経営目標の実施期間である令和5年度から9年度までは、「(有)プロジェクトドウ」が指定管理者となります。
- ・県と指定管理者は、施設の状況や利用者意見等を共有し、相互連携のもと、施設の適正な管理・運営に努めます。

- ・全国的にプレジャーボート隻数は減少傾向が続いていますが、利用者満足度の向上に取り組むことで、リピーター利用の増に努めます。

〔 全国プレジャーボート隻数 ピークの平成14年から平成30年比 約30%減 〕  
出典：国土交通省平成30年度プレジャーボート全国実態調査

## (2) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・石川県滝港マリーナは、マリンスポーツの拠点、また近隣住民の憩いの場など、広く県民に親しまれるよう、利用者の声を大切にしつつ、県と指定管理者が連携して、適切な管理運営を行います。
- ・当マリーナは、プレジャーボートによる海洋レジャー拠点であるとともに、各種ヨット競技大会や学生部活動の場として利用されています。今後とも、マリンスポーツ活性化に向けて適切な管理・調整に努めます。
- ・インターネット・SNS等を活用し、イベント等の情報発信を行っています。今後とも情報発信の充実に努め、幅広い年齢層を対象とした利用促進に努めます。

## (3) 施設運営の効率化について

- ・指定管理者の創意工夫に基づく運営により、安全で質の高いサービスを利用者に提供するとともに、効率的な管理に努めます。

## 5 中期経営目標

### (1) 中期経営目標（指定管理者が実現すべき目標）

- ① ヨット・ボート利用者数については現状の水準を維持します。
- ② 利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。

### (2) 測定指標と目標値

測定指標		基準値 (H29～R1 平均)	中間目標値 (R7)	最終目標値 (R9)
① ヨット・ボート利用者数（延べ人数）		6, 217人	6, 217人	6, 217人
② 利用者アンケートによる満足度	利用者サービス	100%	95%以上	95%以上
	施設の維持管理	99%	95%以上	95%以上

## 6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

### (1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・行政や関係機関と連携し、各種競技大会やヨット教室、乗船体験会などを開催し、県民が滝港マリーナに親しむ機会を創出します。
- ・船舶免許や無線免許などの講習会を開催し、船舶利用者数の拡大や安全運航の促進に寄与します。
- ・インターネット・SNS等を活用し、各種イベントをPRすることで、参加者や利用者の拡充に取り組みます。
- ・マリーナの利便性を向上させるため、高圧洗浄機や大型船台の貸出、氷の販売提供、早朝出航希望者への対応、夏場繁忙期（6月から9月土日祝）の利用時間の延長など、利用者のニーズをくみ取ったサービスを提供し、利用促進に努めます。
- ・マリーナの認知度向上のため、県内各施設にパンフレットを配置するなど広報活動を行います。
- ・火災等緊急時や地震津波等の災害対策として、利用者の避難、誘導、安全確保及び関係機関への通報等について危機管理マニュアルを作成し、職員全員が対応できるよう社員教育を実施します。
- ・出港艇の緊急事故等が発生したときには、緊急連絡網に基づく通報連絡など適切な対応に努めます。
- ・利用者の声を聞く機会として、日頃からコミュニケーションを図るとともに、懇談会やアンケート調査などを行い、利用者との信頼関係を築きます。また、不満や疑問があれば、早期把握し苦情の未然防止に努めます。

## (2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・各設備の適切な点検・維持管理を行い、マリーナ施設の長寿命化を図ります。  
また、指定管理者の創意工夫により質の高いサービスの提供に努めます。

参考資料(施設の利用状況など)

(1)利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

項目	H29	H30	R1	R2	R3
施設利用者数	12,237人	12,593人	12,459人	11,511人	10,748人
うちボート	2,140人	2,132人	2,696人	2,574人	2,340人
うちヨット	3,659人	4,653人	3,372人	1,929人	2,713人
うちその他 (緑地など)	6,438人	5,808人	6,391人	7,008人	5,695人

(2)使用許可等の状況

項目	H29	H30	R1	R2	R3
使用許可件数	1,963件	1,886件	2,247件	2,023件	1,947件

(3)使用料の収入実績

項目	H29	H30	R1	R2	R3
使用料等収入額	14,584千円	14,586千円	15,445千円	14,763千円	14,337千円